

# 第5回 明日の西湘海岸を考える懇談会

国土交通省 関東地方整備局 京浜河川事務所

令和2年1月23日

## 目 次

1. これまでの経緯
2. 事業概要および今後の予定について
3. モニタリング状況について

# 1. これまでの経緯

## ○平成19年9月 : 台風第9号の来襲



○平成18・19年 : 西湘海岸保全対策検討委員会を開催

○平成20～26年 : 現地調査、試験の実施

○平成26年 : 西湘海岸の直轄事業化（県からの要望）

○平成27年～ : 明日の西湘海岸を考える懇談会を開催

・第1回（平成27年3月25日）

・第2回（平成28年1月27日）

・第3回（平成29年3月29日）

・第4回（平成31年1月31日）

・第5回（令和2年1月23日）

平成29年10月23日：  
台風第21号の来襲

令和元年10月12日：  
台風第19号の来襲

# 1. これまでの経緯

平成19年9月 台風第9号により被災

## 西湘海岸保全対策技術検討会

開催時期:平成26年11月～現在

開催回数:10回開催

参加者 :本省、本局、事務所、国総研、有識者2名等

議題 :技術的な検討

## 明日の西湘海岸を考える懇談会

開催時期:平成27年3月～現在

開催回数:4回開催(今回で5回目)

参加者 :事務所、神奈川県、本局、国総研、  
小田原市、二宮町、大磯町、有識者5名、  
漁組、地区代表、市民団体等

議題 :意見交換、情報共有 (合意形成)

◆第3回懇談会(H29.3.29)  
岩盤型潜水突堤 構造決定

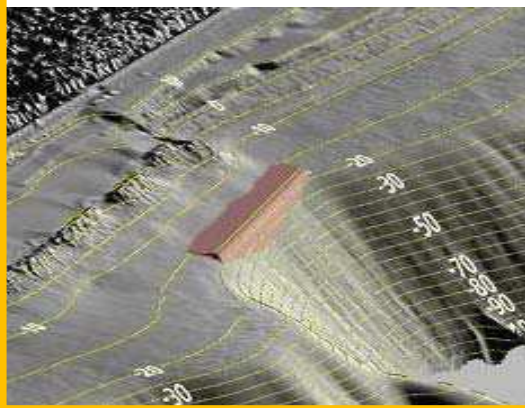


【岩盤型潜水突堤のイメージ】

## 2. 事業概要および今後の予定について -整備事業-

- 岩盤型潜水突堤 6基
- 養浜 約36万m<sup>3</sup>
- 洗掘防護施設 約2km
- 沿岸漂砂礫流失抑制施設 約1km

沿岸漂砂礫流失抑制施設イメージ



岩盤型潜水突堤イメージ



平常時の漂砂の移動を妨げず、高波浪時に前浜を構成する土砂の移動を制御する形状。

岩盤型潜水突堤と砂礫養浜のイメージ

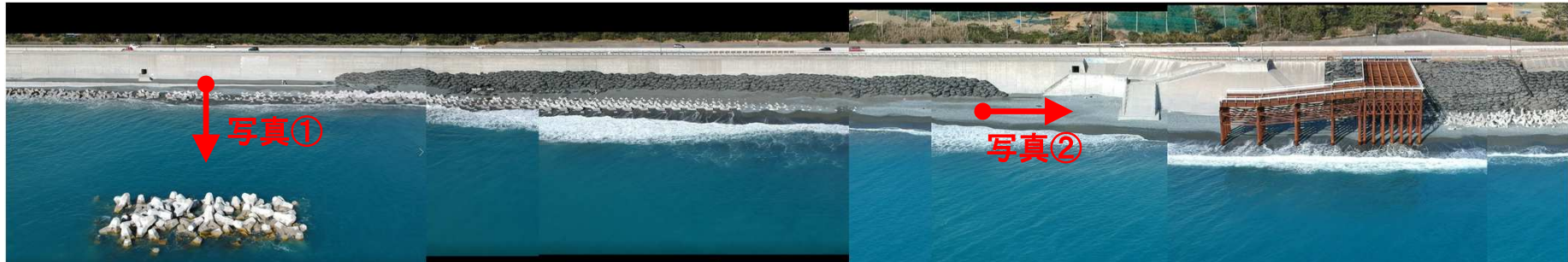


## 2. 事業概要および今後の予定について -事業進捗状況-

- 岩盤型潜水突堤を整備するための工事用道路、波除工を整備中

### 波除工と工事用道路

令和2年1月10日撮影



写真①: 波除工

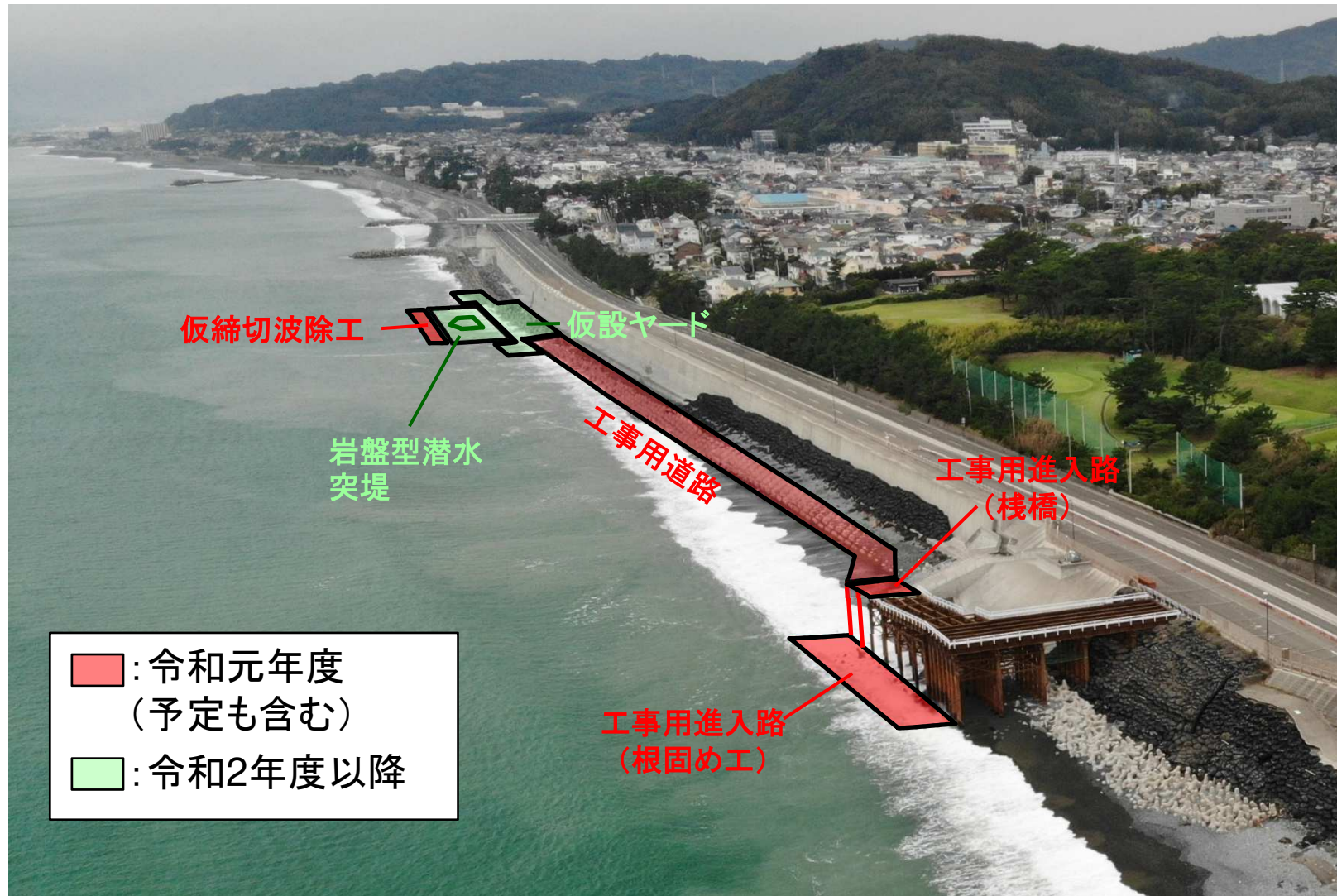


写真②: 工事用道路(棧橋)

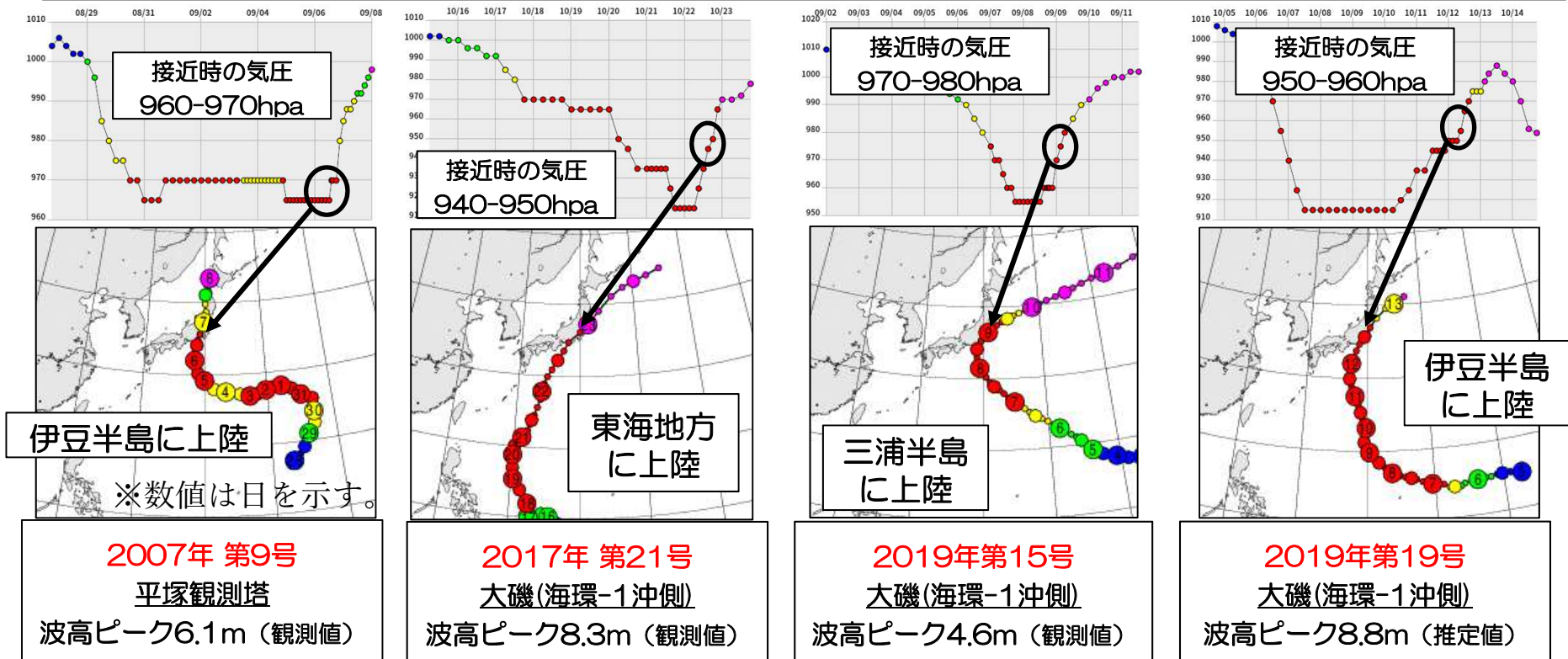


## 2. 事業概要および今後の予定について -今後の予定-

- 令和2年以降に岩盤型潜水突堤とその仮設ヤードの整備に着手予定



## 西湘海岸に高波浪をもたらした大型台風の経路 2007,2017,2019



## 観測点の色

- 青 : 熱帯低気圧 (Tropical Depression) (クラス2)
- 緑 : 台風 (Tropical Storm) (クラス3)
- 黄 : 台風 (Severe Tropical Storm) (クラス4)
- 赤 : 強い台風 + 非常に強い台風 + 猛烈な台風 (Typhoon) (クラス5)
- 紫 (マゼンタ) : 温帯低気圧 (Extratropical Cyclone) (クラス6)



## スライド 8

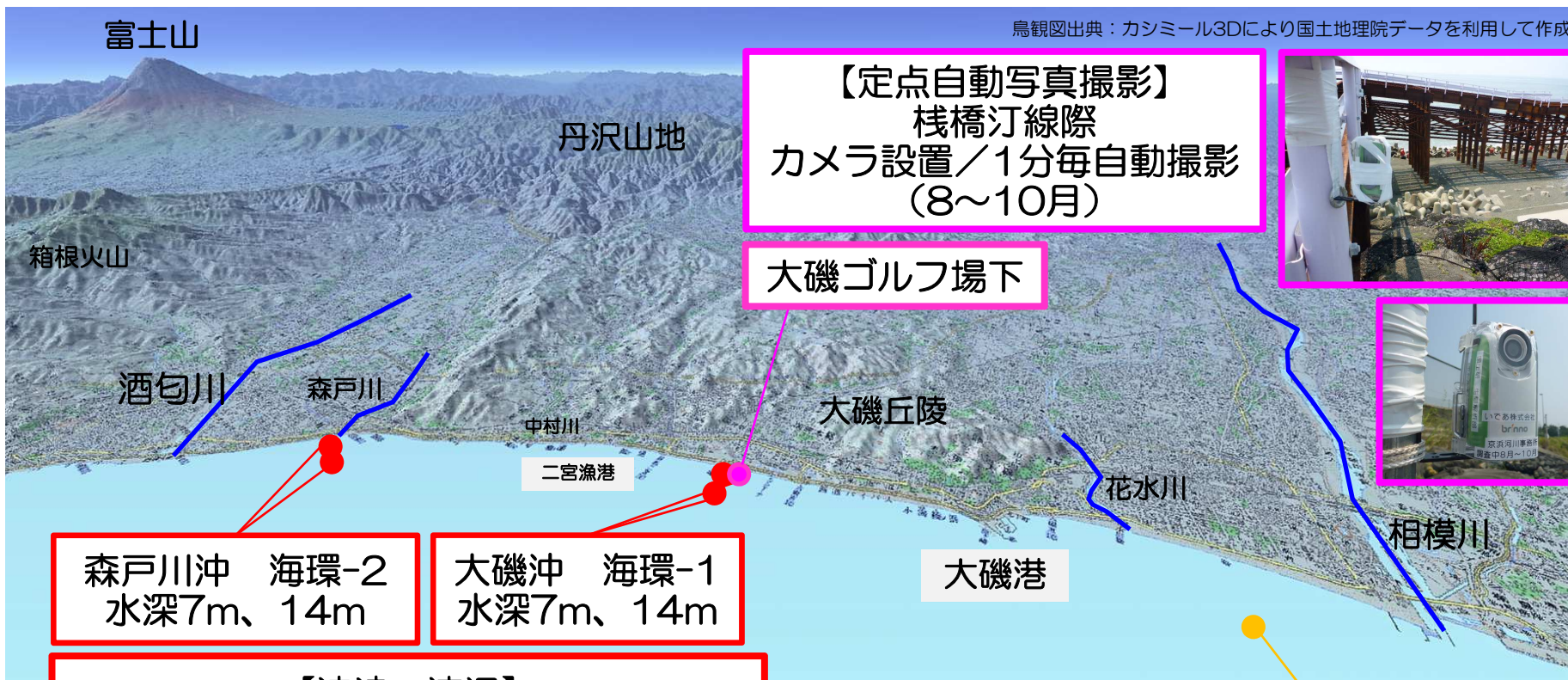
---

**A1**

作成者, 2020/01/21

# 波浪・流況等の観測位置

●● : 国土交通省関東地方整備局-京浜河川事務所  
●● : 神奈川県・東京大学



【定点自動写真撮影】  
栈橋汀線際  
カメラ設置／1分毎自動撮影  
(8～10月)



大磯ゴルフ場下



森戸川沖 海環-2  
水深7m、14m

大磯沖 海環-1  
水深7m、14m

【波浪・流況】  
海底に機器設置／連続観測 (7～10月)



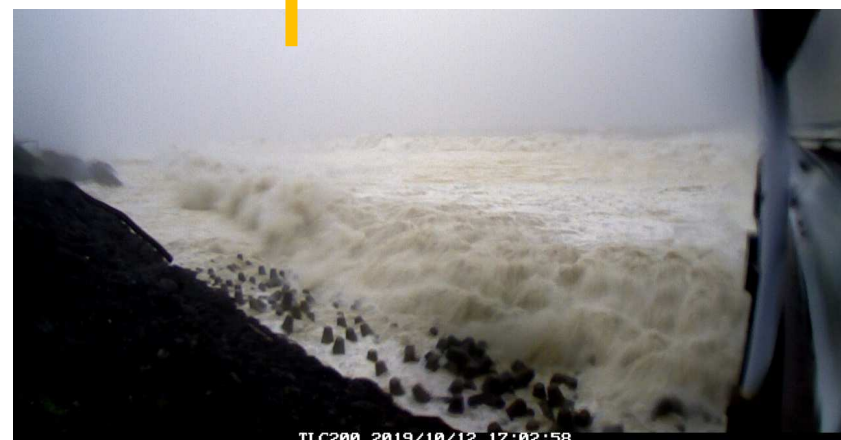
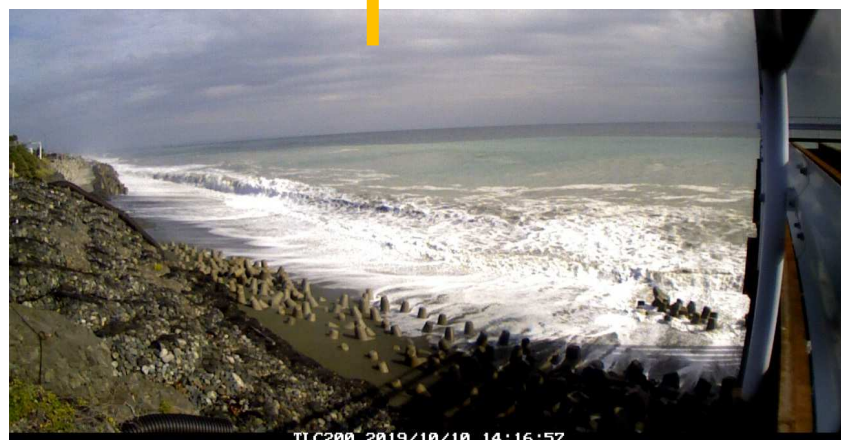
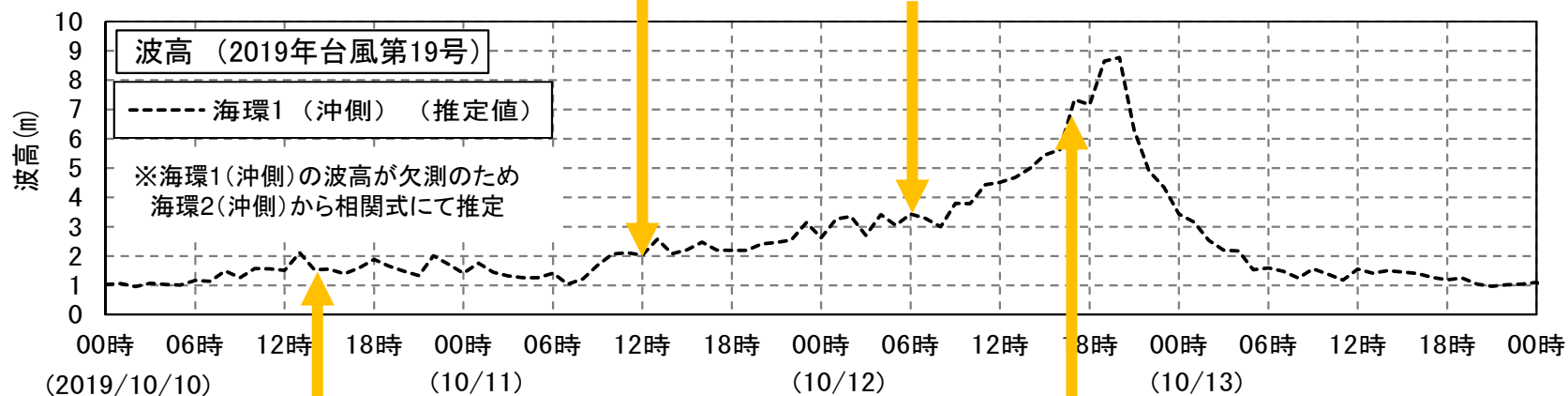
平塚観測塔  
(神奈川県・東京大学)

【波浪・その他】  
気象・海象観測

写真出典：東京大学HP  
平塚沖総合実験タワープログラム

### 3. モニタリング状況について

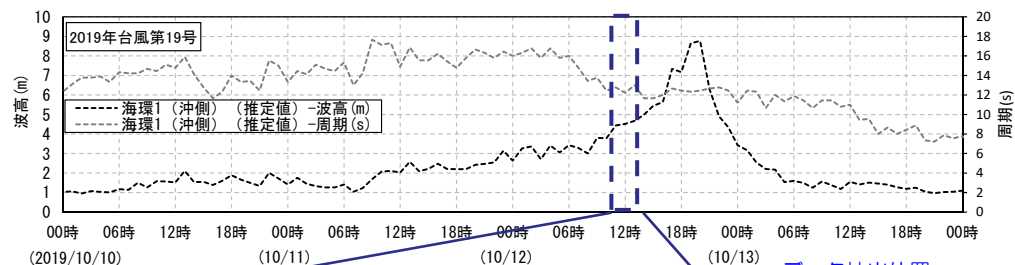
#### R1 台風第19号の波浪観測結果とタイムラプスカメラ撮影結果



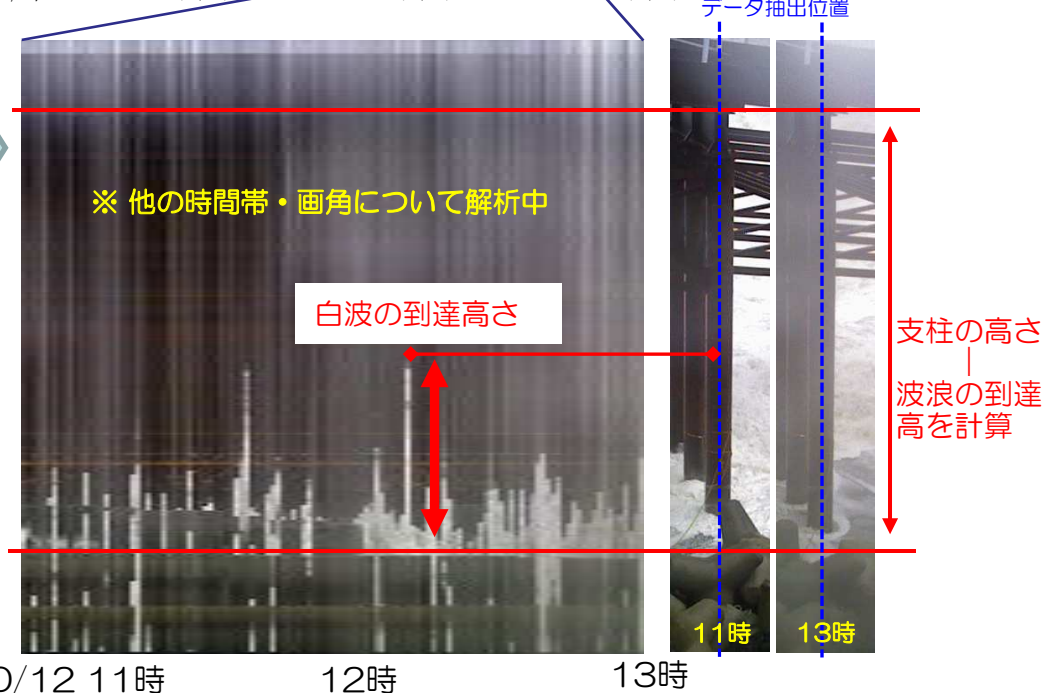
### 3. モニタリング状況について

## 汀線際の波浪状況の把握

1分毎の連続する画像から  
特定位置のデータを抽出



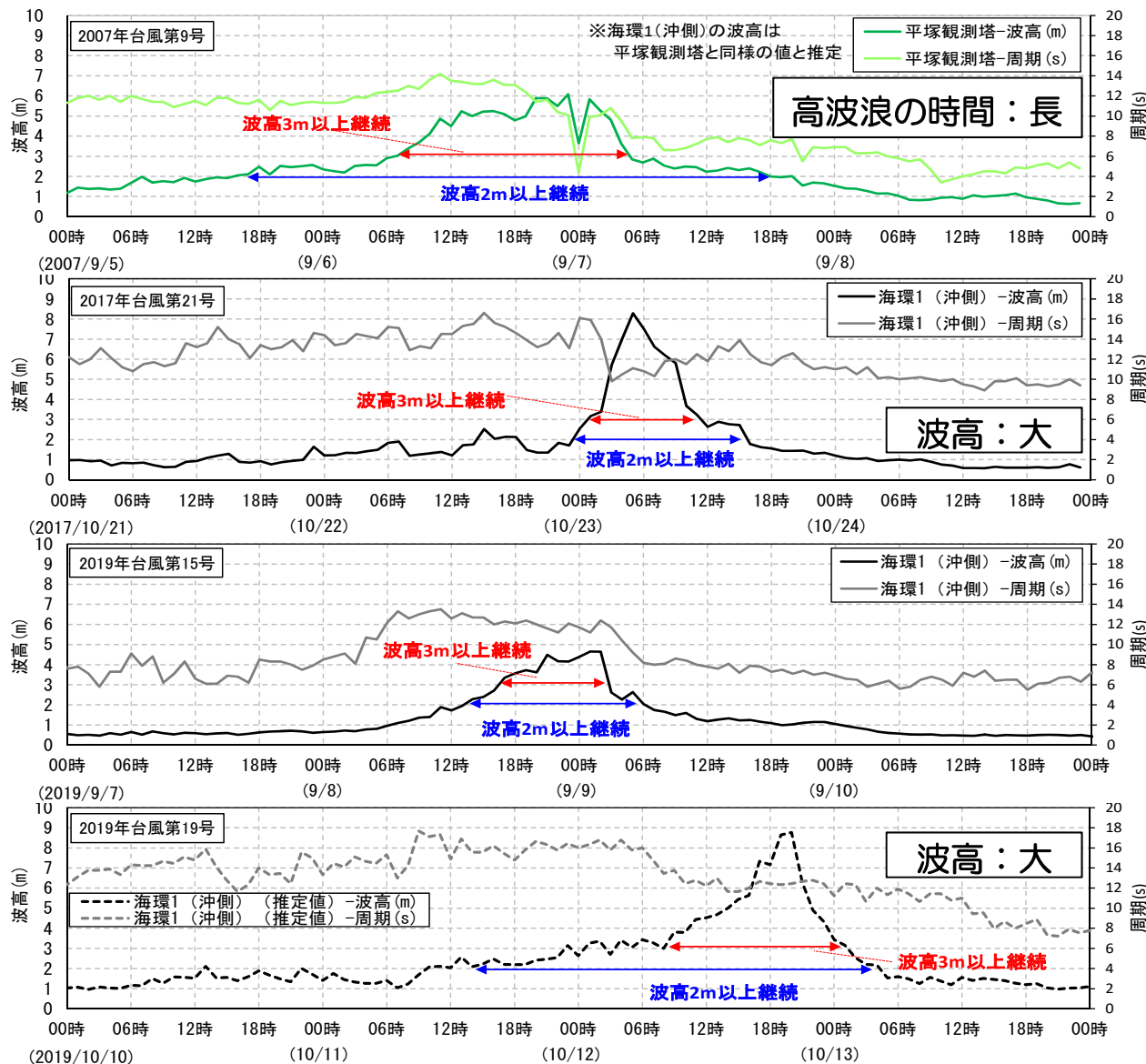
時系列  
合成



- ・タイムラプスでは他の観測では把握できない栈橋付近（砂浜付近）における台風来襲時の波浪や地盤状況が把握できる  
→今後の事業進捗を図る上で、新たな資料として活用が見込まれる。

# 3. モニタリング状況について

## 大型台風 有義波高・周期の経時変化・高波浪の継続時間の比較



**2007年 第9号**  
平塚観測塔  
波高ピーク6.1m  
(観測値)

**2017年第21号**  
大磯(海環-1沖側)  
波高ピーク8.3m  
(観測値)

**2019年第15号**  
大磯(海環-1沖側)  
波高ピーク4.6m  
(観測値)

**2019年第19号**  
大磯(海環-1沖側)  
波高ピーク8.8m  
(推定値)

※海環1(沖側)の波高が欠測のため海環2(沖側)から相関式にて推定